



平成21年度 日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会を開催

7月7日、中部講堂において、日本学術会議九州・沖縄地区会議と長崎大学の主催により、第1回野口英世アフリカ賞受賞者のミリアム・ウエレ博士、熱帯医学研究所ケニア拠点長の嶋田雅隣教授、医歯薬総合研究科の大西眞由美教授による、「現代アフリカの健康発展への挑戦」をテーマにした学術講演会を開催しました。

会場は長崎県内の高校生や本学学生、一般市民、教職員など約700名で満席となりました。初めにミリアム・ウエレ博士から、「野口英世アフリカ賞、そして現代アフリカの健康と発展への挑戦」と題した講演があり、「コミュニティレベルの医療サービス提供に焦点を当て、アフリカの健康と福祉の増進に長年努めていることや、協力することの重要性、特に日本との協力を続けていくことがアフリカでの保健、社会開発を推進するためには重要であることなどが語られました。

質疑応答では、高校生及び大学生から英語によ



ウエレ博士



嶋田教授



大西教授



講演を熱心に聞く高校生

る質問が活発に行われ、将来自分が外国で医師として働く場合何を準備すればよいか、「野口英世博士のようにアフリカで医師として働くためにはどうすればよいか」などの質問に対して、ウエレ博士からは、「病院、研究室だけでなく、コミュニティレベルでの作業ができる医師になしてほしい」、「日本の若者にぜひボランティアプログラムに参加してほしい」、「思いやりの心を持ってほしい」など熱いメッセージが送られました。

引き続き、嶋田教授からは、「なぜいまアフリカ、熱帯の病やまいなのか?」の世も...次の歴史は『辺境』で創造されると題して、また、大西教授からは、「アフリカの女性と子どものくらし」アフリカママのパーとポテンシャル」と題して講演が行われました。

3人の講演は、参加した高校生や大学生に、将来への夢や目標を与える絶好の機会となりました。

GPUクラスタによる計算がゴードン・ベル賞のファイナリストに

工学部では、(独)理化学研究所、プリストル大学、電気通信大学、慶応義塾大学と共同でGPU(ゲームの描画処理用のプロセッサ)として発展し、コストパフォーマンスに優れたグラフィックス向けプロセッサ)の科学計算に向けた応用研究を進めています。(CHOHO第28号で詳報)

このたび、濱田テュア・トラック助教を中心としたこの共同研究において、天文学・流体力学への応用計算における42テラフロップス毎秒42兆回計算の実行性能を達成しました。

この研究論文が、高性能計算に関して最も権威のある賞の一つである、ゴードン・ベル賞のファイナリスト(最終候補)に選ばれました。

このことについて、8月7日、片峰学長同席のもと記者会見を行い、小栗教授から研究の概要、期待される成果、将来への展望などが発表され、引き続き、本研究の計算機を設置している研究施設に移動し、計算の実演が行われました。



研究施設での実演



記者会見の様様

「わくわく(workwork)DAY in 長崎大学病院」を開催



河野病院院長を囲んで
記念撮影

グループ体験の様様

8月7日、病院臨床教育・研修センター医師育成キャリア支援室の主催で夏休み医師職場体験わくわく(workwork)DAY in 長崎大学病院が開催され、小・中学生55人が参加しました。

第1部では、現役医学部学生による体験談があり、第2部では、「心臓の音を聞いて、血圧を測ろう!」「AEDを使うた救命処置を体験しよう!」「ERTでおなかの中を見てみよう!」「すり傷の手当てをしよう!&白衣を着て写真撮影会!」の4つのブースに分かれ、グループ体験を行いました。

終了後のアンケートでは、「また来年も参加したい!」「とても楽しかった!」などの感想が多く、今度は医者のお話をもっと聞きたいとの意欲あふれる意見もあり、将来、医療に携わりたいと考える子供たちにとって、とてもいい体験となりました。

原爆犠牲者慰霊祭を挙行

原爆死没者教職員・学生897人の御霊を慰めるため、毎年実施されている原爆犠牲者慰霊祭が、8月9日、医学部記念講堂において、遺族、医学部長、教職員ら約400人の出席のもと開催されました。



式辞を述べる松山医学部長

はじめに松山医学部長から式辞が述べられた後、原爆投下時刻の午前11時28分に、参列者全員で黙祷を捧げました。

次いで、原爆投下当時、長崎医科大学附属医学専門部に在学中であった、井手内科医院(佐世保市)の井手一郎院長から、当時の惨状を追想するお話をいただいた後、片峰学長ほか大学関係者、ご遺族の方々など、参列者全員による献花が行われ、歯薬学総合研究科の山下教授より、現在の被爆者診断治療のほか、世界のヒバクシャ医療支援の活動に関する講話が行われました。最後に、ご遺族を代表して角尾澄夫氏から、ご挨拶をいただきました。慰霊祭は終了しました。



ご遺族を代表して挨拶される角尾氏



被爆時の惨状を語られる井手氏

ご遺族を代表して挨拶される角尾澄夫氏から、ご挨拶をいただきました。慰霊祭は終了しました。

平成21年度(第32回)熱帯医学研修課程修了式を挙行

8月28日、熱帯医学研究所において、熱帯医学研修課程修了式を挙行了しました。

この研修課程は、熱帯地における保健医療分野の活動に従事しようとする人、国内や熱帯地における活動で熱帯医学の知識と技能を必要とする人などに、熱帯地における医学的諸問題についての広範囲な知識と、それらを活用するにあたって必要な基本的技術を習得させることを目的として国内で唯一、本研究所が実施しています。

今年度の研修生は15人で、6月から8月末までの3カ月間、所内での講義・実習及び野外実習により、寄生虫学、ウイルス学、免疫遺伝学などのほか熱帯地の風土や文化、国際協力の現状と重要性について学びました。

修了式では、平山所長から研修生一人ひとりに修了証書及びディプロマが授与され、所長挨拶の後、研修生代表から「修了を迎えた今日が新しいスタートであり、これから各人は職場や海外などで活動していくことになるが、長崎で学んだことを生かして社会に貢献できるように、また日本と世界の架け橋となつて国際協力をリードしていけるように、各人が誇りと向上心を常に持つて精一杯頑張っていきたい」との決意が述べられました。

本研修課程は、昭和53年度に開設以来、これまで361人の修了者を送り出しており、現在も多くの修了者が国内及び東南アジア、アフリカ、中南米等の熱帯地で活躍しています。



記念撮影